長野県公運協だより
第167号
発行所
長野県公民館運営協議会
長野市若里1－1－4
県立長野図書館内
電話（026）217－6256
FAX（026）217－7015

時代に対応した公民館の役割とは

長野県公民館運営協議会
会長　川上正彦

このたび、長野県公民館運営協議会会長に就任しました松本市松南地区公民館長の川上正彦です。今年度よろしくお願いいたします。

現代社会を取り巻く環境は、急激な人口減少社会への突入により、長野県では人口が二十四年連続で減少しています。特に、合計特殊出生率は二〇二五年で一・二五となり、全国平均の一・一四は上回っていますが、六年連続で過去最低を更新しています。また、若者の県外流失が続く中で、人口構造が変化しており、担い手減少や地域活力が非常に困難となっている状況です。

従来から公民館は「学びの場・交流の場」として地区住民に親しまれてきました。しかし、近年は施設の老朽化や運営上の課題も生じてきており、利用者の皆さんに満足のいくサービスを提供できないような状況になりつつあります。さらに、行財政改革や市長部局への移管、指定管理者制度の導入など公民館を取り巻く環境は大きく変容してきています。

さて、六月十日に開催された「全国公民館連合会第十五回定時総会」において、文部科学省総合教育政策局地域学習推進課の藤岡謙一課長から「文部科学省における公民館をめぐる動き」のなかで、とても興味深いお話を伺うことができました。話の要点としては、「公民館は施設の老朽化や市町村合併に伴う廃止・整理統合により、館数、学級・講座数ともに減少傾向にあります。さらに、子ども・若者にとって公民館が身近な存在となることが求められています。このように公民館に対して逆風が吹くような状況ですが、中学校の部活動の地域連携により、子どもたちの受け皿として公民館の役割が増すことが期待されます。」と述べられていました。

このように公民館は課題が多い状況ではありますが、ピンチをチャンスと捉えて、公民館がハブとなることにより、若者にとって身近な存在となることが重要であると思います。新たな需要や時代の要請を的確に把握することが目まぐるしく変わる時代の状況に対応できるものではないでしょうか。

長野県公民館運営協議会は、公民館大会や研修会などを通して公民館職員の力量や意識の向上を図ることを主な活動基本方針としています。「集う・学ぶ・結ぶ」という公民館の原点を堅持し、より一層の支援に取り組んでまいります。

長野県公民館運営協議会定例総会開催

五月二十一日、松本市松南地区公民館において、令和八年度長野県公民館運営協議会定例総会が開催されました。

各郡市公運協から選出された代議員により、活動基本方針、事業計画、収支予算等の議案が審議され、いずれも承認されました。

また、新会長に松本市松南地区公民館の川上正彦館長が選出されました。なお、本年度の役員は、左表のとおりです。

同日の午後には、資料刊行委員及び長野県公運協だより編集委員の委嘱が行われ、「社会教育実践集」「長野県公運協だより」の発刊に向けた第一回編集委員会が開催されました。

令和８年度　長野県公民館運営協議会役職員名簿

住所	〒380－0928 長野市若里1－1－4 県立長野図書館1階
電話番号	026－217－6256
ＦＡＸ番号	026－217－7015
メールアドレス	kounkyo@mxl.avis.ne.jp

役職名	氏名	所属
会長	川上　正彦	松本市松南地区公民館長
副会長	小林　修一	佐久穂町公民館長
	小嶋　和好	松本市鎌田地区公民館長
	林　　司	喬木村公民館長
	大澤　　幸	信濃町公民館長
	竹内三津男	長野市立若穂公民館長
理事	柳澤　礼子	佐久市中央公民館長
	青柳　信雄	塩尻市中央公民館長
	友野　千咲	諏訪市公民館長
	村松　直昭	飯山市公民館長
	森　　航暉	青木村公民館主事
	波多野　健	山形村公民館主事
	亀井裕太郎	飯田市公民館主事
	小林　宏美	千曲市稲荷山公民館主事
	酒井　　勲	長野市立朝陽公民館係長
	朝倉　光貴	松本市岡田公民館主任
監事	山下　正康	飯田市公民館長
	山崎　達也	須坂市生涯学習推進課主査

事務局	木下　陽介	事務局長
	筒井美保子	アドバイザー
	竹内美津江	事務局員

令和八年度長野県公民館館長総会並びに研修会

千曲市稲荷山公民館
館長　上條　優

令和八年五月十四日、長野県公民館館長総会並びに研修会が千曲市の信州の幸あんずホールにおいて、二百一名の参加をいただき開催されました。

地域コミュニティーの再生が大きな課題となる中で、公民館はすべての人に開かれ、「つどい・まなび・むすぶ」の実現のための活動拠点として欠かせない存在であり、「共助」の地域づくりの場としても必要な存在であることを目指し、「公民館とは」を視点におきながら、各種団体、学校、企業との連携を図り地域のつながりや子どもたちを大切にした活動のあり方を学ぶ機会となりました。

基調講演は、長野市立博物館協議会会長・元長野市立安茂里公民館長の宮下健司先生から「公民館活動から地域を見つめ直す地元学」と題して、先生が長野市大岡と飯山市において実践した、地域に根ざした活動についてご講演をいただきました。

その土地に生きる人々の豊かな生活の知恵と技術を学ぶことや学ぶ場を「地元学」とし、地元を歩き人々の話を聞き、眠っていた宝を掘り起こすことで、その価値に気づく。また、その宝や聞いた話などを記録に残すことで次の世代に引き継ぐことができる。そして、その記録を、これからの地域づくりに役立てていくことが地元学の目指すところであるとして、地元を見つめ直す大切さを、実践を踏まえてお話をいただきました。

午後は、十六の分散会に分かれて、問題提起の「多世代が『つどい・まなび・むすぶ』場の創造と実践的な活動」と「公民館を取り巻く諸課題」について情報交換を行いました。

コロナ以降、通常な活動にいま一つ戻りきらない状況もある中で、地域の中での公民館のあり方を再認識し、それぞれ工夫をしながら新たな事業に取り組む状況や地域づくりに果たす役割など活発な意見交換ができたと思います。

ブロックニュース 中信

ボッチャ大会&ニュースポーツ体験会の開催

木祖村公民館
主事　水本知子

木祖村公民館では、六月十三日（土）に小学生を対象とした「すくすく倶楽部」と共催で『ボッチャ大会&ニュースポーツ体験会』を開催しました。子どもの健全育成や高齢者の生きがいづくり、多世代交流が目的です。

小学生からお年寄りまで、四十名が十二チームに分かれ、ボッチャの予選、決勝リーグを戦いました。優勝チームは小学二年生の娘さんをキャプテンにお父さん、おばあちゃんの三世代チーム、準優勝チームは小学生高学年二人と低学年一人で構成された女子三人チームでした。決勝リーグでは、観戦する方々も増え、一球一球頭で考え、緊張しながら放つ球、低学年にしながら白球に近づけた時の歓声は一番の盛り上がりを見せました。

ボッチャ競技の合間には、三種目のニュースポーツにも触れることができました。年齢、性別、障がいの有無に関わらず、子どもから高齢者まで誰もが一緒に楽しめます。今回の開催にあたり、「長野県障がい者スポーツ協会」「木祖村ボッチャを楽しむ会」「源流のもりスポーツクラブ」「まめのわ食堂」の皆様にご協力をいただきました。今後も、多世代交流を図る事業を企画し、つながりを大切にした公民館活動に取り組んでいきたいと思います。

リレーコラム

「長野県らしい公民館とは？」⑭

長野県らしい公民館とは？

中川村公民館
前館長　片桐充昭

公民館活動も時代とともに少しずつ変わり、情勢に合わせた活動になる。私も公民館に十九年間という長い間席をいただき、内容を状況に合わせて変えながら過ごしてきました。その間、多くの公民館関係の方々に一方ならぬお世話になりました。

公民館で心がけることは、「地域の歴史や伝統を過去から受け継ぎ、多様な世代が集う学習・交流の場として現在を豊かにし、その学びを次の世代へと伝えることで未来の地域社会をつくり、つなぐ拠点にすること。」だと思います。

中川村は一つの本館、十八の分館からなり、本館分館ともにそれぞれの地域に歴史・文化・先人の知恵が生きており、年中行事や伝統芸能であったり、団体・個人のスポーツや文化活動も盛んに行われています。年中行事では正月のしめ飾り、門松、繭玉かざり、田植えが終われば「おさなぶり」、新米収穫時の五平餅会が行われることもあります。それぞれの集落の神社では「獅子舞」奉納があり、和太鼓や人形浄瑠璃などの伝統芸能活動も盛んです。スポーツではバレーボールが昭和三十年代より公民館行事「バレー祭」として続けられ、最近は「モルック」を新たに取り入れ公民館活動を推進しています。

活動を通して感じるのは、場所や季節・内容によって参加する人たちの関心も顔ぶれも異なり、参加者の関心とニーズを察知し、年代・性別・分野なども想定しながら事業を計画することが大切であるということです。

これからの公民館活動の視点として、関心や価値観、必要性、また学習機会などの重層、多様化などの社会的変化のなか、必要課題、要望課題、年齢課題、地域課題など広い視野から、計画すること。地域の方々に参加していただき、「つどう、まなぶ、むすぶ」ことを、さらに「過去、現在、未来」へと結び付けられたら、公民館の大きな目標に少しは近づけることではないかと思います。そして公民館が、地域の世代を超えた人のつながりの一助となればと願っています。

ここに生きる

夢のある公民館活動

野沢温泉村公民館
主事　齊藤悠真

今から約二十年前、当時まだ純粋だったころ思い出す行事と言えば…村内を探検したり、ウッドデッキを作ってみたり、様々な指令にチャレンジした「チビッ子探検隊」。第一回開催から三年間参加し、三泊四日で大学生に面倒見てもらいながら他学年のみんなで共同生活した「通学合宿」。放課後みんなで遊んだり、季節のイベントを楽しんだりした「遊友くらぶ」など、思い返せばキリがありません。

これは、私が公民館主事となって初めて知りました。（当時からいる専門部員から聞いて衝撃を受けました。）今となっては、チビッ子探検隊は立ち消え、通学合宿は基本学生主体での実施だったため急病等の安全性に不安があったことなどで休止となり、遊友くらぶは所管替えで公民館からは手が離れ、私が少年時代に経験し思い出に残っている行事が無くなってしまいました。

続いている行事ももちろんあります。「村民運動会」「村民球技大

会」「総合文化祭」子どもたちが楽しめる行事は今もあります。しかし、時代的にいろいろ難しいところもあるかもしれませんが、ここに肩を並べられるような企画ができないだろうかと、子どもたちの思い出の一ピースになるようなことができないかと日々模索しています……。

土着への愛着

軽井沢町中央公民館
館長　柳澤陽平

軽井沢町は中山道の浅間根越しの三宿として形成された歴史がある町で、私の先祖も軽井沢宿に居を構え、代替わりしながら生活が脈々と受け継がれてきました。

先祖はかつて花屋を営み、避暑に訪れた外国人の要望で花の種を増やし育て上げ、今でも家にはオリジナルの種子は受け継がれています（今では環境問題的視点から考慮すべき事柄であったと思われますが…）。

この花屋については、フィクションではあるものの堀辰雄先生の『美しい村』にも登場しており、私はこのエピソードを誇りにしています。そんな話を含めて幼い頃に祖父から聞いた話が、私の土着的な誇りやこの地への愛着を育んできたように感じます。

二十三歳で祖父よりも先に父を亡くしたとき、私は地域に認められる必要性を強く感じました。

そのため、あたりまえのことかもしれませんが、今も自治会や消防団活動等に参加しています。時にはそれが「地域で生きるためのもがき」に思えることもありますが、結局はこの土地と人々との関係性を守り続けたいと感じるからかもしれません。

県教委より

生涯学習課からのお知らせ

県生涯学習課では、生涯学習推進センターの公民館講座をはじめ、各種研修を企画しています。

近年、学校と地域の連携・協働への期待が益々高まる中、その推進役となるコーディネーターの皆様に継続して学んでいただけるよう、コミュニティスクール講座をシリーズ化して実施しています。今後の主な予定をご紹介します。

①『コーディネーションスキルを学ぶ（仮）』九月十八日。講師は県ＣＳアドバイザーの齊藤むつみさん。

②『実感を学びにin片丘 ～対話と協働が育む学校・地域の未来』十月十日。講師は塩尻市教育委員会の三溝裕子さん他。

③『子どもと大人の対話による地域学校協働活動の推進』十一月十九日。講師はＮＰＯ法人ＭＥＧＵＲＵ代表理事の横山暁一さん他。

地域における学びとつながりを支える公民館関係者の皆様のご参加を、心よりお待ちしております。詳しくは県生涯学習課へお問い合わせください。

（生涯学習課
主任指導主事　油井玲子）

編集委員のつぶやき

野沢温泉村公民館
主事　齊藤悠真

今年二月、ミラノコルティナオリンピックに当村出身の丸山希選手が三種目に出場し、個人ノーマルヒルで銅メダル、混合団体で銅メダルを獲得しました！

競技当日は、野沢温泉村公民館を会場としパブリックビューイングを開催しました。深夜？早朝？にもかかわらず、多くの村民が希選手の活躍を応援しようと会場に駆けつけました。

また、多くの報道で「野沢温泉村公民館でパブリックビューイングが行われました」と伝えられ、公民館の名が県内外へ広がり、大変うれしく思います。

様々な使用用途・取り組みがある公民館。この公運協だよりは他の地域の活動等を紹介されています。私も公運協だよりを見ていると「面白そうな講座だなぁ」「どういうふうにやっているのかなぁ」といった発見があり、自分たちの活動に活かせることができると感じます。皆さんもぜひ他地域を参考に、より良い公民館活動にしていきましょう。